

## 積雪期知床半島縦走

(2013 年 2 月～3 月)

### 同志社大学体育会山岳部

L. 小谷紘平 (当時 4 回生)、SL. 山口尚紀 (当時 4 回生)、齋藤慎太郎 (当時 3 回生)



#### 1. 「積雪期知床縦走」着想から完遂まで・・・小谷紘平の思い

- 2006 年冬 知床縦走の記録を読む。(岡山大学山岳部・1965 年 3 月)
- 2008 年 4 月 3 年生になり、山岳部の登山リーダーとなる。
- 2008 年夏 『NANOOK OF THE NORTH』(1992・米)を見る。
- 2008 年 9 月 南東側海岸を踏破。主稜線縦走後の帰路を確認。北西側は地形の厳しさに断念。
- 2009 年 2 月 ウトロ → 羅臼岳 → 羅臼 → 横断道路 → ウトロ (スキー)
- 2010 年 5 月 カヤックで半島を一周。2008 年に断念した北西側海岸を海から偵察。
- 2011 年 3 月 「積雪期知床縦走」計画するが、3 月 11 日に東日本大震災が発生して中止。
- 2012 年 9 月 泳ぎと歩きで夏の半島を一周。2008 年に断念した北西側海岸を踏破。
- 2013 年 2～3 月 羅臼平から岬までの主稜線縦走と南東側海岸線を踏破。

#### 2. 山行計画の概要

##### (1) 日程・行程

- 2 月 27 日 (木) ウトロ温泉バスターミナル→知床自然センター  
→羅臼岳稜線→903m ピークを越えた鞍部
- 2 月 28 日 (金) →羅臼平→羅臼岳頂上→羅臼平でデポ回収→南岳  
→ 1475m ピーク北側沼地
- 3 月 1 日 (土) →南岳→知円別岳→硫黄山往復→東岳→848→ルサ乗越
- 3 月 2 日 (日) →トッカリムイ岳→ルシャ岳→知床台地→知床岳往復
- 3 月 3 日 (月) →知床沼→ポロモイ岳→112.4→766→651.9 ウィースプリ→知床岬
- 3 月 4 日 (火) →カブト岩→念仏岩→近藤ヶ淵 (ペキンノ鼻から西 500m の岩場)  
→ペキンノ鼻→モイレウシ川近辺の岩場
- 3 月 5 日 (水) →観音岩→相泊→(道道 87 号)→羅臼
- 3 月 6 日 (木)～3 月 11 日 (火) 予備日 6 日

### (3) 食糧計画

【朝飯】 12 回 2/28~3/11

アルファ米+ちらし寿司 : 1 回  
生米+ちらし寿司 : 3 回  
餅ラーメン : 1 回  
停滞ラーメン : 4 回  
α 米+ジフィーズ : 3 回

【夕飯】 12 回 2/27~3/10

生米+キムチペミカン : 6 回  
生米+カレーペミカン : 2 回  
生米+シチューペミカン : 2 回  
味付きアルファ米 : 2 回

【飲み物セット】

紅茶ティーバッグ 38P+12p ほうじ茶ティーバッグ 4P 緑茶ティーバッグ 4P

粉ミルク 1kg 以下 砂糖 4kg

味噌汁 味噌 480g あおさ、わかめ、桜えび、高野豆腐、干し椎茸、

ポタージュ 21 袋 しじみ 21 袋 レモン 10 袋 しょうが湯 2 袋 抹茶かたくり 2 袋 お吸い物 2 袋

【燃料】 白ガソリン 400cc×12 泊=4800cc 予備 200cc を加えて、5L

【行動食】 ライトミールブロック 1 袋 フルーツグラノーラ 1 合 ミックスナッツ 1 合

【停滞食】 するめ いりこ

### (4) 装備計画

【団体装備】

鍋 2.6L・鍋 1.5L・ドラゴンフライ (ポンプ・0.9L ボトル) × 2・1 合カップ・漏斗× 2、茶漉し付ロート、お玉・しゃもじ・へら・鍋つかみ・風防・速乾タオル・雪袋・メガライト・ポールアタッチ・ストック・テントマット・鋸・スノーソー・天気図用紙 15 枚・下敷・ラジオ・イヤホン・電池・ロープ 8.2mm\*50m・フローティングロープ・確保器× 2・カラビナ× 8・プロープ× 2・予備ヘッドライト・スリング 120cm× 3・スリング 60cm× 4

【個人装備】

ザック・外着上下・パンツ× 2・タイツ× 2・シャツ× 2・中間着上下・防寒具上下・内手袋× 2・靴下× 2・時計・ミトン・サングラス・ゴーグル・目出し帽・ニット帽・マスク・ナイフ・コンパス・シャベル・笛・ヘルメット・ピッケル・バンド・全身の着替え・アイゼン・シュラフ・防水収納袋・スパッツ・ビーコン(換え電池× 3)・個人マット・登攀具・武器(スプーン・箸 or フォーク)・プルージック用スリング 60× 1・食器・スリング 120× 2・水筒 2L ヘッドランプ(換え電池× 2)・魔法瓶 500ml・尿瓶・地形図・ロールペーパー・計画書・メモ帳・筆記具・現金・常備薬・コンタクト用品等・レスキューシート・学生証(身分証明証)・非電子式ライター・マッチ・保険証コピー・固形燃料・レジ袋× 3・ゴミ袋・携帯電話・乾電池式充電器



### 3. 行動記録

#### 2月26～27日（水）

昼過ぎの飛行機で神戸空港から北海道に渡り、札幌で燃料と食糧を調達した。羅臼平から岬までの縦走 40km、岬から相泊までの海岸線 20km を踏破するために行動日 7 日間・予備日 6 日間の計 13 日間分を用意した。

札幌から乗った夜行バスで眠り、起きると知床半島のウトロだ。よい天気の中、バスターミナルから歩き始める。海沿いの道に出ると水平線まで真っ白に流氷が埋め尽くしている。さっそくオホーツク海ならではの光景に感激する。岩尾別から岩尾別温泉方面へ続く道に少し入ったところでイワウベツ川の河原に下りて、渡渉地点を探す。前に来た時は水量が少なくそのまま渡ったが、今回は水中に飛び石を作って渡った。

イワウベツ川と赤イ川に挟まれた台地から、樹林帯を登り始める。前回の羅臼岳はスキーだったが、今回はワカンだ。直前まで迷っていたのだが、強風で雪が固まることと、海岸の巨岩帯や崖のへつりでスキー装備が不利なることを考慮した。439.1m ピークを超えた 2 つ目の鞍部は樹林帯が途切れていて羅臼岳がきれいに見える。再び樹林帯に入ったところで幕営する。夜中に強まった風が樹林帯でうなっていた。

#### 2月28日（木）雪／晴れ

風は朝には弱まった。雪がちらついているが視界はよく、羅臼岳が見える。しかし、標高 900m を超えて登るにつれてガスと風が出て吹雪になった。入山前が記録的な大雪であったため新雪が多く、ペースが遅い。視界が悪いなか、なんとか羅臼平に上がり、13 時くらいから幕営して天気待ちをした。テントの中でお湯を沸かしてゆっくりしていると、14 時半くらいにガスが晴れて、雪がやむどころか快晴になった。4 年前に登った羅臼岳山頂が間近に見えたが、今回は素通りして、三ツ峰の鞍部に登り雪洞を掘った。樹林帯や海岸ではブラックダイヤモンドのメガライトという簡易シェルターで幕営したが、それ以外はイグルーや雪洞で寝ている。雪洞完成後は水作りに移行する。行動中の魔法瓶は甘いミルクティーにしているので、最初にできた水は味噌汁にして変化をつける。わかめと麩の味噌汁が、冷えた体にじんわりしみる。



#### 3月1日（金）晴れ

空は晴れていたが、眼下のガスが強風に流されている。視界は良好だが、いつ上がってきたガスに覆われてもおかしくない。サシユイ岳への登りで三ツ峰を振り返ると半島の付け根のカーブが見えて、頭に北海道の形が思い浮かぶ。とうとう知床岬に向かって歩き始めたことを実感した。10 時頃からガスが上がってきて、30 分後にはホワイトアウトになった。二つ池周辺の平らな場所にさしかかっていたので天気待ちで座り込んだ。しかし、幕営するまでもなく 30 分後には晴れた。なだらかなところでは多少風に吹かれても平気だが、細い稜線で吹かれると怖い。南岳の頂上手前では耐風姿勢をとることもあった。知円別岳からの硫黄山往復は取りやめて先を急いだ。今日中にルサ乗り越えまで行く予定であったが、ハイマツ交じりのモナカ雪に阻まれてスピードが遅かった。ルシャ山と、その南東側 731m ピークとの

間の樹林帯でイグルーを積んだ。

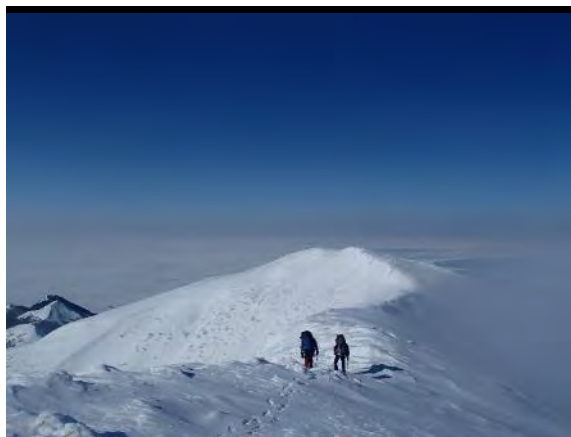
### 3月2日（土）晴れ／曇り ～3日（日）

昨日は発達中の低気圧が日本海を進んでいることも考慮して、中にテントを設営できるイグルー雪洞を建造したが、まだ低気圧の中心部のため今日も知床はよい天気であった。平和な樹林帯を前進して高度を下げる。知床の主稜線はルサ乗り越えていったん標高 200m まで下がる。低気圧が通過して知床の等圧線を密にする前に、高度をなるべく下げたい。しかし、ルサ乗り越えは風の通り道でもあるので、下がりきる前の標高 350m 付近で、樹林帯の陰になるように雪洞を掘った。入り口のトンネルは 2m 確保して、雪洞内でトイレもできるようにした。これで十分な対策をしたつもりであったが、『日本登山大系』の知床の解説に載っている「雪が飛ばされて雪洞が消滅した」という記載をまだ見くびっていたようである。

20 時頃に雪のブロックで入り口を塞ぎ就寝したが、22 時頃に風の吹き込みを感じて目が覚めた。ヘッドランプを灯してみると、雪洞の入り口が削れて吹雪が吹き込んできていた。広げた荷物が雪にまみれている。雪のブロックはどこに行ったのだろうかと思いに、雪洞の外に出てみたら、2m のトンネルが無くなっている。このままでは入り口だけでなく居住部まで削られて、吹雪の中に露出してしまう。とりあえずスタッフバッグにまとめた荷物で出入口を塞ぎ、吹き込みを抑えた。これで一旦は落ち着いたが、過去に読んだ複数の遭難記録が頭をよぎった。荷物を紛失すると一気に窮地に追い込まれる。メンバーを暖かな寝袋から出させるのは気が引けたが、絶対に荷物を紛失しないように、また想定より早く吹雪に露出してしまっても対応できるように、徹底的な行動準備を行った。そして、雪洞の奥にさらに雪洞を掘り、掘り出したブロックで元の雪洞を埋めた。再び寝袋に入ったのは午前 3 時であった。この日、北海道を通過した低気圧は千島近海で 968 ヘクトパスカルまで発達して、中標津を始めとする北海道の市街地では吹雪で多くの人が亡くなった。

昼前に起きて、外を確認すると、埋めたはずの元の雪洞が完全に露出した上に、さらに削られていた。樹林帯から折れた太い生木が散乱している。この日は、停滞食のポップコーンを作りながら、同じ雪洞に滞在した。12 日間で唯一の停滞日である。

この機会を利用して、焚き火で水を作ってみた。残念ながら、この時の水はヤニ臭くて不評であった。雪山での焚き火は、火床を作ったり、熱をこもらせるといったコツが必要である。なかなか実践の機会はないが、万が一、知床の奥地でガソリンストーブが使えなくなることを想像すると、非常用セットに固形燃料を入れるだけでは怖かった。そのため、機会を見つけては焚き火の経験を積んでいた。幸い、不測の事態は起こらなかったが、焚き火もイグルー・雪洞と同様に自然にあるものを利用して生き延びる知恵と捉えている。



### 3月4日（月）晴れ

快晴だが風は強い。連日のハイマツ混じりのモナカ雪ラッセルで、アルミ製ワカンの先端部が折れた。木の枝を拾って鋸で加工し、タイラップで添え木にする事で補修した。ワカンなしの歩行速度では岬まで行けない。知床岳の肩、標高 1160m で幕営する。

### 3月5日（火）晴れ

幕営地から知床岳頂上を往復する。この日の行程は、雪が硬く、ハイマツに捕まる回数が少なかった為、快調に前進できた。ウィースプリ手前のなだらかな樹林帯で幕営する。

### 3月6日（水）曇り

朝からガスで視界が悪く、せっかく岬に近づいているのに景色が見えない。13時に行動を終了して雪洞に入った。

### 3月7日（木）晴れ／曇り

4時45分に雪洞から出ると流氷の海を見渡せる素晴らしい天気である。みごとな朝焼けを見ながら標高を下げ、鬱蒼とした森林に入っていく。コンパスを頼りに灯台を目指し、そこから岬に到達する。まるまる太ったエゾシカ達が走り回り、こちらを見つめている。感無量。カブト岩、念仏岩を高巻き、滝ノ下の岩の隙間で幕営する。



### 3月8日（金）晴れ

近藤ヶ淵からペキンノ鼻まではまとめて大きく高巻き。船泊手前の岩場、メガネ岩手前の岩場をへつる。登攀技術の面ではメガネ岩手前ののが最も難しかった。ウトロの市街地で見たと「流氷の上には乗らないで下さい。海に落ちると数分で命を落とします」という看板が脳裏にあったので、落ちたくなかった。干潮時刻が夜なので、メガネ岩の穴は夕方にくぐる。この穴は、満潮時は海の中だ。モイレウシ湾で幕営準備中に北大山岳部に遭遇する。

### 3月9日（土）晴れ

午前中は潮位が高いので遅くまで寝て、昼の12時にモイレウシを出発した。タケノコ岩まで行ったが、波が激しかったのでへつりを諦めて、高巻き地点を探しながらモイレウシ湾に戻る。その途中の洞窟で、昨日出会った北大山岳部が干潮を待っていた。朝からその洞窟に居たために、満潮にやられたようだ。彼らはそこで干潮を待っていたが、我々は残りの食糧がぎりぎりなので、高巻きを選んだ。干潮まで待っても波の状態などに左右される海よりも高巻きの方が確実に判断したのだ。

モイレウシ湾からシカの踏み跡を辿り標高 500m まで高巻きして、ウナキベツ川左岸の河口に下りる。これで海岸線の難所であるタケノコ岩とトツカリ瀬を回避できた。河口近くの樹林帯で幕営した。

### 3月10日（日）曇り

6時10分出発。6時30分観音岩取付。登りは緩やかだが、下りは急である。ザックを落としてからバックステップで下りる。崩浜に並ぶ番屋と電柱が見え始めた頃、スノーシューとストックの北大山岳部に追い付かれた。9時15分相泊に到着した。

その後は、北大山岳部のご厚意に甘え、車に同乗させていただいた。また、彼らの定宿に連れて行ってもらい、大変お世話になった。それぞれの知床について語り合い、楽しい時間を過ごした。

### 4. 反省など

- ・ホワイトアウトになった場合は、動かず待機。迅速にシェルターを立てられると尚よし。
- ・ワカンより、スノーシューの方が良さそう。
- ・凍傷にならないように、衣類を確実に乾かし、血流を意識する。
- ・シュラフが濡れた場合は、シュラフが乾くまで、シュラフを外す。

